

# 自然との調和が生み出した 日本画画材の美

— 東洋の気候風土を通して —

講師 岩泉 慧（京都芸術大学専任講師 画材ラボPIGMENT TOKYO元館長）

日程 2024年

**座学** 8月12日(月・祝) 14:00～16:00

※座学のみ参加も可

**WS** 8月13日(火) 14:00～17:00

※日本画の画材を用いて小さな絵を描き、キーホルダーに仕立てます



三鷹市美術ギャラリーで開催中の収蔵作品展Ⅴ後期では、市内にアトリエを構え師弟関係にあった日本画家・横山操と米谷清和、国際的にも注目を浴びる李禹煥の作品198点を展示しています。本講座では普段、目にする機会が少ない日本画で用いられる材料や道具について学びます。



## 【講座紹介】

古墳壁画より始まったとされる日本の絵画史は、外界の影響を常に受けながらも緩やかにその姿形を変え、現代まで続いて来ました。その中でも花鳥風月のような自然を題材にした作品が多い日本画ですがその関わりは作品に描かれたイメージだけではありません。使われている素材や道具達もまた、自然界の物質を使用したものがほとんどです。これは単なる偶然でなく、東洋の気候風土が生み出した必然の賜物であることが画材の成り立ちから見えてきます。

本講座では単なる日本画の画材紹介に留まらない気候風土や科学的側面から日本画が持つ魅力と特異性について紹介していきます。

また、二日目には実際に日本画の画材を使ったキーホルダー作りのワークショップも行います。

岩泉 慧

会場 三鷹市生涯学習センター ホール

対象 中学生以上

定員 ① 座学のみ 40人  
② 座学とワークショップ(WS) 28人

受講料 ① 座学のみ 1,000円  
② 座学とワークショップ(WS) 2,000円

申込方法 7月13日(土)9:00から先着順で受付(受付時間9:00～19:00 休館日7/22を除く)  
生涯学習センターへ電話(0422-49-2521)でお申込みください

講座URL

